

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年3月12日

No.100

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

“混ぜればゴミ、分別すれば資源”——生ごみ問題 井上ひさ子議員が質問

井上ひさ子議員は3月11日の予算特別委員会で、ごみの減量・資源化について質問しました。

スリムシティさっぽろ計画改革素案(札幌市一般廃棄物基本処理計画)に寄せられた意見(12人、全132件)の中から、家庭ごみの3割を占める生ごみの問題について取り上げ、「素案では“家庭の水切り”として、ごみとして燃やしていく発想に立っている。2回にわたり調査された『生ごみ資源化システム実証実験』では、これからも継続してほしい、全区でやってほしいという意見が寄せられている。生ごみの減量、資源化を計画的にすすめていくべき」と求めました。

富田秀則環境局部長は「家庭から出る生ごみ資源化には“市民力”を結集し、減量、資源化に重点的に取り組む」とし、市民まかせの姿勢を見せました。

また、**井上議員**は、集団資源回収について「町内会などの回収ルートがあることが、紙ごみなどの減量に大きく貢献しているのではないかと。ぜひ他都市並みに奨励金を上げるべきだ」と求めたところ、**富田部長**は「現時点での増額はしない。他都市の動向なども勘案し、総合的に判断したい」と答弁しました。

井上議員は、「地域での説明会や懇談会で寄せられる声に素早く対応し、業者の意見も参考に、市民と力を合わせてごみ減量をすすめよ」と求めました。